

第1回 棟方志功記念館建物利活用意見聴取会議 議事要旨

- 日時 令和7年11月12日（水）10時00分～11時00分
- 場所 リンクステーションホール青森 3F 小会議室（4）
- 出席委員（6名） 一般財団法人棟方志功記念館 顕彰推進アドバイザー 池田委員
松原町会 会長 石田委員
学校法人青森山田学園青森大学 副学長 佐々木委員（座長）
一般財団法人棟方志功記念館 理事長 杉本委員
社会福祉法人青森市社会福祉協議会 会長 成田（幾）委員
東青地区中学校教育研究会美術部会 会長
／青森市立造道中学校 校長 三橋委員
- オブザーバー 青森県観光交流推進部観光政策課総務グループ 鷹幸総括主幹

○案件

（1）棟方志功記念館の利活用について（資料1）

1 事務局説明

- ・案件（1）について資料に基づき事務局より説明（資料1）

2 委員からの意見

（池田委員）

- ・棟方志功は自分が何かやっていく段階でいろんな人を巻き込んで、自分で美術団体を作ったり、美術展をやったり、子どもたちの展覧会をやったりといろんなことをやって街を巻き込んでいった。今回の展示では、あくまで棟方志功を中心とした展示となるものの、棟方志功を中心にいろんな人たちを巻き込んで、ある種、街のオーガナイザーであったような新しい一面を紹介できるのではないかな。また、市が所蔵している他の作家の美術作品や以前稽古館にあったような文化財なども紹介する形で展示を構成し、棟方志功を中心に青森市の文化全体を見直せるような展示にできればよいのではないかな。
- ・県立美術館でも展示をしているが、常設展で場所も限られているため作品を中心に見せている。記念館は建物全体でやれるので、ビジュアル的な資料というか映像を作ったり、体験型のゲーム感覚で楽しめる展示構成をしたり、費用的な問題もあるが、通常の実美術館にとられないような展示の仕方を工夫してもよいのではないかな。棟方志功という人は慣行にとられない新しいものを作った人なので、新しいものを取り入れて、若い人たちにこれからを繋げていくようなもので大胆なことを考えていいと思う。

（石田委員）

- ・松原地区は、幼稚園から高校までそろった地区である。この施設を使って何かできないか町会でも考えているが、映像を使って棟方志功の生涯を紹介したり、版画によるワークショップをするなどして、子どもたちに世界的な版画家である棟方志功を伝えていけるような施設にしてほしい。

- ・版画の街・あおもり実行委員会では中学生向けの版画講座や高校生向けの多色版画講座、「はがきで送る」版画で青森コンテストを実施しているが、ワークショップを行うにあたり、こういった組織も活用してはどうか。
- ・松原地区には、棟方志功記念館の他、中央市民センターや旧市民図書館もあり、全部を含めた文化芸術パークのようなものになってもらいたいと考えている。

(杉本委員)

- ・棟方志功のファンはシニアが多く、この先を考えると、若い人たちにどういうふうに志功を理解してもらえるかを考えていかなければならない。広島県三次市の湯本豪一記念日本妖怪博物館（三次もののけミュージアム）は、年間 5 万人が訪れており、記念館より少し広いくらいのスペースではあるが、デジタルやアナログでビジュアル的にきちんと見せており、参考となるのではないかな。例えば、年表を展示しても子供たちは字面を見ないので、タッチパネルで触って動くものであったり、視覚で感じる展示の仕方はある。普通の美術館みたいに作品をただ展示するのではなく、デジタルを活用し動いたり触れたりするものや、アナログでもゲームで遊べるようなものにするなど考えてみれば面白いと思う。
- ・棟方志功は版画だけではなく、倭画や書があったり、お茶が好きだったりと様々な側面を持っており、そういった棟方志功がやってきたもののすべてを庭を活用し体験しながら、感性を磨く場所になればいい。そういった意味でワークショップの作り方や楽しみ方を工夫していけばいい。
- ・長島小学校に「おもだかの間」がある、教室も学校も古くなっており、今後の維持を考え記念館に移して再現すれば、記念館を「聖地」とすることができるのではないかな。
- ・建物の改修に制限はあるが、ワークショップや体験活動は欠かせないと思う。限られたスペースを最大限どう活かすかが大事である。
- ・建物のバリアフリーもしっかり行うべきである。

(成田（幾）委員)

- ・映像を活用した棟方志功そのものを紹介するコーナーを設置したり、作品の展示は作品の中からローテーションで展示する作品を変えろという方法も考えられるのではないかな。
- ・ワークショップで作品を作るのもよいが、子どもに関心を持ってもらうために、子どもたちが各展覧会で入賞した作品を展示したり、遊びの要素を含んだゲーム感覚のワークショップといった仕組みも考えられる。
- ・庭園は棟方志功自身の希望によるものが多く入っていると思うので、それを活かしていけばよいと思う。
- ・長島小学校にある「おもだかの間」は、入ったとたんに棟方志功を感じられるムードがあるので、そういったムードがあるもので構成していければよいのではないかな。

(三橋委員)

- ・展示については、以前のものと同じ展示ケースに入るとなると、本物を近い距離で見ることができる展示になると思う。面積が少ないとか様々な意見があるとは思いますが、近いところで画伯の迫力を体感できる展示になると思う。本物に勝るものはないと考えている。

- ・自分も子供の頃に、画伯が一心不乱に版画を彫る映像に魅了された。そういうものを見て、ワークショップで同じ体験ができれば、子どもたちの心に残って、また来ようという思いになると思う。
- ・松原地区は交通の便がよいので、中学生に放課後や休みの時間帯にワークショップのお手伝いをしてもらうこともできるのではないかな。
- ・デジタルに関しては、子どもたちが扱いに非常にたけているので、自分のパソコンを持ってきて何か資料が見れるような展示もできるのではないかな。

(鷹幸オブザーバー)

- ・意見として申し上げることは特段ないが、知事から、「棟方志功の顕彰は青森市さんと一緒に進めていこう」と聞いているので、県が所有する作品の展示等も含め、こういった形で進めていけばよいのか、相談しながら一緒に進めていければよいと思っている。

(青森商工会議所常議員情報・教育文化部会ワーキンググループ座長 成田（耕）委員)

※当日欠席のため、意見を事前提出

- ・数多くの板画家を輩出した青森市であるが、名誉市民第一号の棟方志功は別格の扱いに値するので、志功の名前が残る館にしてもらいたい。
- ・「おもだかの花」の美しさに魅了されて、心を奪われ、絵を描こうとした原点が庭にあると思う。志功の絵を鑑賞するための所作ともいえる花をいつくしむ気持ちをもって館に入る一連の環境を整えてほしい。

(佐々木座長)

- ・スペースが限られている中、デジタルなど新たな要素を加えてバージョンアップさせていくというのはいい視点だと思う。
- ・今日は第1回ということで皆さんの御意見を吸い上げたが、2回目以降はそれを踏まえた議論を進めていきたい。